

令和7年 7月24日(木)

あさひの日だまり

NO.14

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～1学期が終わります～

夏休みを思いっきり楽しんで欲しいです

今日で1学期が終わります。登校日数74日でした。全登校日数が205日ですので三分の一を少し超えました。子どもたちは楽しい思い出を心に刻んでくれたでしょうか。「1学期楽しいことはあったかな？」と問いかけたときに「こんな楽しいことがあったんだよ！」という返事が返ってきてくれることが何よりの願いです。

ご家族の皆さんと地域の皆さんには目に見えるいろいろな場面でそして私たち学校職員の目には映らない多くの場面で子どもたちや学校へのご支援いただいたことと思います。本当にありがとうございました。

今校長として1学期を思い返してみますと、子どもたちとご家族に申し訳ない思いがこみ上げてくる事象がいくつもあります。学校の教育活動により子どもたちが少しでも健全な方向に成長してくれていればと願うばかりです。謙虚な姿勢を失ってはいけないということを肝に銘じて学期末を迎えたいと思います。

1学期の終わりにあたりご家族と地域の皆様に改めて心より感謝申し上げます。そして2学期に元気な子どもたちの顔と学校で出会えますよう夏休み中の子どもたちの生活を温かく見守っていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

終業式にあたり、いつものように「挑戦」のお話をしました。相も変わらずで恐縮ですがよろしければ目を通してください。

これで74日の1学期が終わります。皆さんよく頑張りました。明日から夏休みになります。27日間という長い休みです。ぜひ今までできなかったことに「挑戦」してみてください。そして「自分ってこんなことができるんだ！」という感じで新しい自分との出会いを体験して欲しいと思います。

校長先生はもう「挑戦」することを決めています。当然一輪車に「挑戦」です。

今の状態を見て下さい。本当に少しずつしか上手にならない私の一輪車です。

(みんなの前で一輪車に挑戦しました)

昨日は3mくらい行けたと思っていると今日は乗ってその場で落ちてしまったりします。本当に「ワオーとさけびたくなります」

テレビ画面を観て下さい。(パワーポイントでお話したのでパワーポイントの内容を掲載します)

トーマス・エジソン 今から100年前のアメリカの発明家です

「蓄音機」今というオーディオを発明した人です。

エジソンは12歳のときから片方の耳が完全に聞こえなくなり、その後もう一方の耳もほとんど聞こえなくなりました。

耳がほとんど聞こえなかったエジソン。耳がほとんど聞こえないのだから音に関する発明には「挑戦」しないように思うけど・・・・。

蓄音機を発明してトーマス・エジソンはこう言いました。

私は耳がほとんど聞こえないので、音が聞こえる仕組みを機械で作ってみたかったんですと。

「だから、成功できなかった」となりそうなことを「だから、成功できた」と発想を転換して考えたんですね。

なんて前向きなんでしょう！

じゃあ今の私はどうでしょうか。

「60歳をこえているから成功できないだろう」となりそうな気持ちに立ち向か



っていききたいと思います。

すぐに成功しないので私には「すぐにうまくできる人にはわからない、上手くできない人の悔しさや悲しい気持ちがよくわかる」ように思います。

「なかなかうまくならないので、少しでも上達すると超うれしい」気持ちになることができます。

今はうまくいかないけど、今私は成功にたどりつく道の途中にいるのだ。と信じています。私はあきらめません。



お話の内容を変えます。

今から5年前のことです。2021年8月15日の朝、岡谷市川岸の JR 川岸駅前の山が大雨で崩れました。本校の巻刈尚煌（なおき）くんがお母さんとお兄さんとともに土石流に巻き込まれてなくなりました。尚煌君が生きていれば今6年生です。6年2組の教室にはお花が置かれた机があります。

人は一人ひとり天から大切な命をお借りしているのだと思っています。私のこの命も天から今お借りしている最中です。お借りしている命は時期が来たら天にお返しすることになります。お借りしている長さはみんな違います。大切なのはお借りしている時間の長さではありません。天から命をお借りしたという奇跡がすごいことなのです。そして同じように命をお借りしている者同士が互いの命を大切に思いながらともに生きたという事実が尊いのです。みなさんより少し早く尚輝君がお返した命は今天でゆっくり休んでいます。天に向かって今皆さんが「挑戦」していることを「今こんなことを頑張ってるんだよ」ってちょっとだけでいいので話してあげてくれたら尚煌君はきっと喜んでくれると思います。

～現在米作りに励んでいます～

肥料は多ければよいというものではないようです

米の「追肥」について米作りの仲間から教えてもらったことを先生方に紹介しました。そのお話は下のような内容です。

稲は植え付け時に肥料を与えます。化学肥料の人もいますしこだわりの有機肥料の人もいます。そして今は稲の追肥の時期で「幼穂（稲穂になるほんの小さな部分）形成期」にあたります。幼穂が1センチほどに成長したときを見計らって 穂肥 N（窒素）20 : P（リン酸）4 : K（カリ）4 を含んだ肥料を追肥として与えます。

時機を逸すると、窒素が含まれているので茎が成長しすぎ収穫直前に稲が倒れて苦労します。しかも実の入りが悪く小粒の米粒になってしまいます。心を込めて米作りをしている農家の人は毎日茎をナイフで切って幼穂の長さを計測します。1センチになったところを見定めて追肥をまきます。適期に追肥を与えると稲穂が窒素を吸収してくれて大粒のおいしいお米を作ってくれます。

追肥をまく時期は、早くてもダメ、遅くてもダメ、チャンスは一度だけです。私はうまくいったことがありません。そのために私のコメは粒が小さく白い部分が入ってしまいます。「今年こそ」と思っているのですがどうでしょうか。



追肥ってある意味大人から子どもへの声かけに似ているようにも思うのです。何か課題にぶつかって悩んでいる子は今まさに伸びるチャンスに巡り合っています。困っているからとすぐに手を差し伸べるのか。その子の思いを想像しながら傍らからじっと見守り必要な時にアドバイスを送るの。大切時期を見逃して子どもに声かけせずに終わるのか。

私などはすぐに手を差し伸べてしまって子どもが伸びる芽を摘んでしまうことが多かったのではないかと思います。